

國學院大學 教職課程科目

ICT教育の理論と方法 第2回

社会変化とICTの役割

高等学校情報科教員 稲垣 俊介

- inagaki-shunsuke.jpに入力フォームあります
- できるだけ前に座ってくださいね!

この講義のお約束

- この講義は基本的に皆さんの意見で成り立つものです。
- 少ない分量のインプットしか求めません。だから「覚えよう」ではなく「考察」と、その「アウトプット」が大切です。
- 他者の意見から学びましょう。他者の意見を受け入れつつ、学んでいくことが大切だと考えています。

前回の課題提出より(抜粋です)

教員は様々な業務をしていて多忙な職業でもありますが、やりがいも多くあるものだとも思っています。ブラックかどうかは先生によって感じ方が異なりますが、その大変さとやりがいの両方を考えながら、悩んでいる先生は多いのかなとイメージしています。

ICT教育の実現が必要だと聞くことが多い今、この授業を通して学べることが多いと思っています。ICTの有効的な使用法を身につけ実際にそれを実践すること、またICTの可能性を考えていくことで今後の教育やそれ以外の場面でも役立てていきたいです。

よろしく願いいたします。

稲垣先生の考え方や先生がどのような経緯で教師になられたのかを聞き、様々な経験をされていてとても羨ましいと思いました。よく大人の方から、「若いうちに多くの経験を得るべきだ」と言われます。今しか出来ないことを多く経験し、そこで色々な人と出会いその経験を生徒に話せる教師になりたいと思いました。

気づいたら授業時間の90分が経っている、そんな授業でした。
7限というつらくて憂鬱な時間ではあるが、この授業なら頑張
れると改めて思いました。「ICT」というまだ確立されていない
ものをこれから教員になるうえで使いこなせることはとても大
事であると思います。「先生というのはずっと先生である」とい
う言葉はずっと覚えておこうと思いました。

気づいたら授業時間の90分が経っている、そんな授業でした。
7限というつらくて憂鬱な時間ではあるが、この授業なら頑張
れると改めて思いました。「ICT」というまだ確立されていない
ものをこれから教員になるうえで使いこなせることはとても大
事であると思います。「先生というのはずっと先生である」とい
う言葉はずっと覚えておこうと思いました。

今回の授業で「なぜその科目、単元、題材を学ぶのか」という言葉が強く印象に残りました。自分が教員になったらまずはそこについて生徒と一緒に考え、伝えていきたいと感じました。私が教員になるときには今よりももっと発展、発達したICT技術があると思います。教員になったときにしっかりと活用していけるように、この授業を通して得られる学びを大切にしていきたいです。実際に高校の教員をしている稲垣教授の授業を受けられるので、現在の学校の状況も踏まえた活きた学びを得られるように頑張ります。

大学の教授の講義は、話すことではなく研究を主としている人たちなので必死に汲み取らないといけない部分が多いのですが、普段から高校生と接している影響か、とても話が面白くて時間が過ぎるのが早かったです。

「常に見られている仕事」「終わりが無い仕事」というのは自分には少し荷が重いような気がしてしまった。

たまたま自分の知り合いが今神代高校の一年生でそこで謎の親近感が湧きました。

また堅苦しい感じもせず、教授のような専門家で何言ってるのか分からないというタイプでもなくとても幸です。

話も頭に入って来たので楽しく受けれる気がしました。

7限だからと思って正直少し憂鬱な授業でしたが、稲垣先生
がとても面白い素敵な先生だったので、来週以降の授業が楽
しみになりました ✨

現役の高校教員の話聞く機会はそう多くないので、ICTだけでなくさまざまなことを考える講義にしたい。しかし、私はICTに詳しくないので最低限使えるようにこれから取り組んでいきたい。

あまり今まで知る事のなかった先生の仕事の裏側などを知ることができて面白かったです。実践について具体的に状況が想像しやすいように説明して下さったので90分あっという間に経ってしまいました。高校の先生もされているということで大変多忙な中7限の講義をして下さっていると知り、すごいなと思いました。

情報の教員にならなくてもいいが、ICTに強く…とおっしゃっていましたが、正直ピンとこなかったのですが、15回の授業を重ねて自分で考えられれば分かるものなのか…?と思いました。

文系教科でICTが求められると聞いて、後期授業の終わりには成長できるように頑張ります。

情報の教員にならなくてもいいが、ICTに強く…とおっしゃっていましたが、正直ピンとこなかったのですが、15回の授業を重ねて自分で考えられれば分かるものなのか…?と思いました。

文系教科でICTが求められると聞いて、後期授業の終わりには成長できるように頑張ります。

面白い授業でした。実際に教員として働いているからこそそのリアルなお話が聞けて楽しかったです

授業とても面白かったです。私は国語の教員志望ですが、著作権や信用できるサイト、ネットの情報の引用の仕方などはたとえ文系だとしても、というか文系だからこそしっかり学ばないといけないと思っているのでこういった文系科目のほうがICTが必要という意見に同意します。

講義の時間帯が夜間ということで睡魔に襲われるのではないかと内心ヒヤヒヤしていましたが、稲垣先生のトークも講義内容も面白くて今期が楽しみになりました。

稲垣先生は、話し方がとてもハキハキしていて、「高校教師だなあ」という印象を感じました。一年半大学にいと、話し方が穏やかな先生が多かったため、高校にいる感じを思い出して懐かしさを感じました。また、教師って本当に大変な仕事だなと再認識しました。

久しぶりに高校の先生の講座を受けた気持ちかして懐かしく感じました。情報の授業は、入試名は全く関係なかったのもので、楽しんで週に一回受けることができました。しかし、これから入試科目になってしまったときの生徒の気持ちをうまく扱えなくてはいけないなと思いました。

情報の先生は今までなんか変わった人が多く内容も相まって
楽しい情報の授業を受けたことはないですが、稲垣先生の場合
生徒のことや教育についてしっかり考えての情報の授業だ
ということがわかりこれから半年で色々なことを吸収したいと
思いました。よろしく願いいたします。

高校教師の仕事について詳しく知ることができた

デジタル教科書の利用も含めICT機器が教育にどんどん入ってくる時代に現役で仕事をされている方の話なので自分の考えが豊かになっていく予感がしました。私は授業は大切だし、まずはそこを1人前にしなければいけないのは分かっていますが、いい授業をしたいただけなら塾の先生で良いと思っていて、部活動や進路指導、学校行事など、生徒のその後を変えてしまうような責任がある仕事だからこそ、そこに寄り添い、向き合える仕事ほど魅力的なものはないと思って教師を目指し始めました。自分がきちんとした教育者となって教育という伝統を繋ぐことで恩師へ、そしてその出会いへの恩返しにもなるかなと思っているので、次の変化だらけの時代の教員として活躍できるようにこの授業も頑張っていこうと思いました。

現時点から見た未来と本来の未来には違いがあるという視点が興味深かった。当たり前なようで普段生活しているだけでは意識することはないと思う。稲垣教授のお話を聞いていてこれからの授業が楽しみだと感じた。

稲垣先生の話し方が優しくて内容も聞きやすかったので、私もそんな話し方がしたいと思った。

高校教師としての仕事についてあまり理解できていなかったため、この講義を通じて理解を深められるようにしていきたいです。

高校はブラックな職場であると思います。教科教育や生徒指導ならともかく事務作業まで教員がすることで仕事量が増大していることが現状であるため、分業制に移行するべきです。必要最小限の仕事で働きやすい環境整備がされるように願います。

最初はICTと聞いて、難しそうなイメージがありました。先生が現役の先生をやっているというのを聞いて、授業がリアルに温度を感じながら聞くことが出来ました。

特に今回の授業では、学ぶ意義について深く感心しました。自分自身の体験も相まって、ここを伝えることで、生徒が積極的に勉強してくれるのであれば、サボらずしっかりと伝えたいと思います。

今後の社会でしっかりと教師をこなしていくために、この授業を一生懸命楽しく受けていきたいです。

印象に残ったのは、実践された授業の紹介です。こんな授業をしたいというように思いましたが、反対に自分にはこんなふうにできるだろうかとも感じました。なぜその教科を学ぶのかという点について改めて自分でも考えようと思いました。

話の中で、様々なものに挑戦することで、多く挫折したが、体験できてよかったという話を聞いて、自身はそのような体験はほとんどないので今からでも少しでも多くのことに挑戦したいと考えました。

話が上手な先生だなという印象を受けた。また後輩たちが情報に詳しくなっていく今後の日本において、**自分も情報についてある程度の知識はつけておかないと思った。**そして今度からは今度からは前の方に座ろうと思った。

大学入って経験したことのないような授業でとても楽しかった。

学校での教員の経験がある先生の授業は受けたことがあったが、教育現場で今現在、実際に働いている先生の授業を受けることはなかった。貴重な機会になると思った。私の通っていた県立高校は東京都立の高校や私立高校に比べてあまりICTを用いた教育が積極的に行われていなかったのも、この授業を通じてICTを用いた新しい教育のありかたについて理解を深めたい。

自分事に持っていくということは今までにない発想でした。歴史を学ぶということの理由は入試になりがちですが、そうではなく他の理由を言えるような教員になれるように頑張っていきたいと思います。

大学に入ってから一年半余りが経ちますが、久々に高校時代の思い出や、高校教師になろうと思った理由を思い出すことができました。稲垣先生が仰ることは私にも深く納得できるものでしたし、今のアルバイトで行っている塾講師にも通じる事でたくさんのお気づきを得られました。次回の授業も積極的に学んでいこうと思います。

先生の印象は、周りをよく見ているなと感じました。人前で周りを
見ること、ルックアップすることが苦手なので吸収出来たら
いいなと思いました。私の夢は教師になることですが、他に
やりたいことがあったり葛藤があったりします。新卒で教師に
なるのか、別の道に進んで教師になるのか、など時間をかけ
て自分と向き合っていきたいと思います。

ICTに強くなることで、学び手としての質、教え手としての質が極端に上がることを学ぶことができてよかったです。私もICTに強く、それを用いた教育を施すことができる教員になりたいと感じました。

実際に高校で勤務している先生なので、出てくる話がタイムリーで自分の時と考え方も変わっているんだと、ならではの話を知ることができてよかったです。

滑舌が良く、非常に聞き取りやすい授業だと感じました。学校の先生になるにあたって、生徒が将来実質的に活かせるような授業をしたいと思いました。

生徒の事を考えられる先生

子ども達が試験のためでなく、知りたいという気持ちで勉強するためには、子どもに学習、勉強だと感じさせないことが大切だと思った。例えば、テレビゲームであれば、どうしても進められないステージは攻略本を読み、分からないことは友達に聞いたりする。これも問題解決の学びである。しかし、いくらゲームでも攻略本を強制的に読まされ、毎日何ステージ分進めと命令されれば、子どもはやらなくなる。強制することや先が見えないほどの膨大な内容が学習の意欲を削いでいるため、自分に関係することや体験したことから自然と知識を得ることが大切だと思った。

教員一筋の生き方をしてこなかったというバックグラウンドがあるため、外からの視点を持った方という印象を受けました。また、とてもお話が上手で講義の中で「教員は場をつなぐなどの無茶振りをされる」ということもあり、話下手な私としては少しでも先生の喋り方の間などを学べたらと思いました。

私は今年の5月に母校の中学校で教育実習を終えました。3週間の実習で、3年生の国語を担当しました。合計21コマの授業を行い、場を繋ぐではありませんが、検診が入り急に授業が短縮になったり、当日にもう一コマ授業をやってほしいなど言われ、無茶振りの話には納得するところがありました。また、ある先生からは、教員は喋るのが仕事でもあるね。というアドバイスをいただきました。そういったところから、おしゃべり好きまでではなくても、相手の気持ちを慮った喋り方、推測などができる人間になりたいと思います。

半期、よろしくお願いいたします。

実は全員の方のご意見を表示したわけではありません。

ここには載せないでほしいのであれば、必ずそう書いてください。

個別にご返信が欲しいという方もいたら、おっしゃってくださいね。

皆さんは、縁あって、私の生徒となりました。

一緒に、教育を考えていきましょう。

講義のカリキュラム

1. 私たちはテクノロジーに支えられている
2. 私たちの少し未来

1. 私たちは
テクノロジーに支えられている

DX

DX

Digital transformation

実習！

自分が中学生のとき、高校生のときと比べて
DXされた事例を挙げてください。

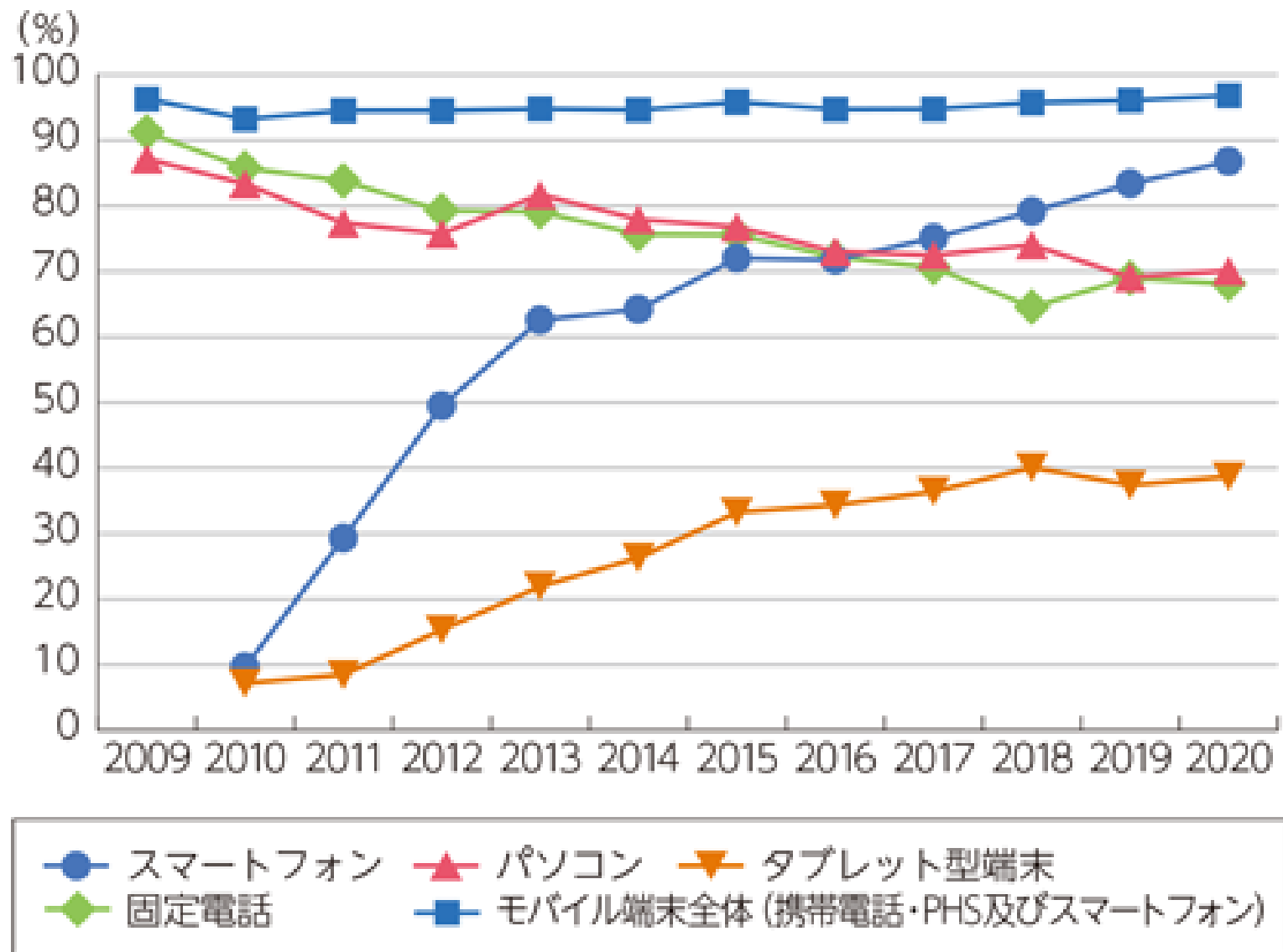
世の中がこうなったという俯瞰的なことではなく、
自分がこれまで関わった範囲のみで考えましょう。

Society5.0



20XX

in SOCIETY 5.0



情報通信機器の世帯保有率 出典 情報通信白書(2021)

Society5.0

人工知能 (AI), IoT, クラウド, ビックデータ

2. 私たちの少し未来

実習2

自分が中学生のとき、高校生のときと比べて
変化した職業の事例を挙げてください。

これも、自分の直接見た、体験したところから考
えてみてほしいです。

職業觀

少子化と情報化

3. デジタル読解力不足

実習3

「デジタル読解力」という言葉、
知らないと思います（今、調べないでください）。
さて、どんな意味だと思いますか？

PISA

PISA

読解力, 数学的リテラシー, 科学的リテラシー

● 全参加国・地域(79か国・地域)における比較

☐ は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555	北京・上海・江蘇・浙江	591	北京・上海・江蘇・浙江	590
2	シンガポール	549	シンガポール	569	シンガポール	551
3	マカオ	525	マカオ	558	マカオ	544
4	香港	524	香港	551	エストニア	530
5	エストニア	523	台湾	531	日本	529
6	カナダ	520	日本	527	フィンランド	522
7	フィンランド	520	韓国	526	韓国	519
8	アイルランド	518	エストニア	523	カナダ	518
9	韓国	514	オランダ	519	香港	517
10	ポーランド	512	ポーランド	516	台湾	516
11	スウェーデン	506	スイス	515	ポーランド	511
12	ニュージーランド	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
13	アメリカ	505	デンマーク	509	スロベニア	507
14	イギリス	504	スロベニア	509	イギリス	505
15	日本	504	ベルギー	508	オランダ	503
16	オーストラリア	503	フィンランド	507	ドイツ	503
17	台湾	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
18	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
19	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
20	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
		信頼区間※(日本): 499-509	信頼区間(日本): 522-532		信頼区間(日本): 524-534	

出典: 国立教育政策研究所Webサイトより

PISA2018の読解力

「読解力」

① 情報を探し出す

② 理解する

③ 評価し、熟考する

読み取り

デジタルも含めた多様なテキストを、
そのテキストの構成原理に基づいて素早く情報を抜き取るスキル

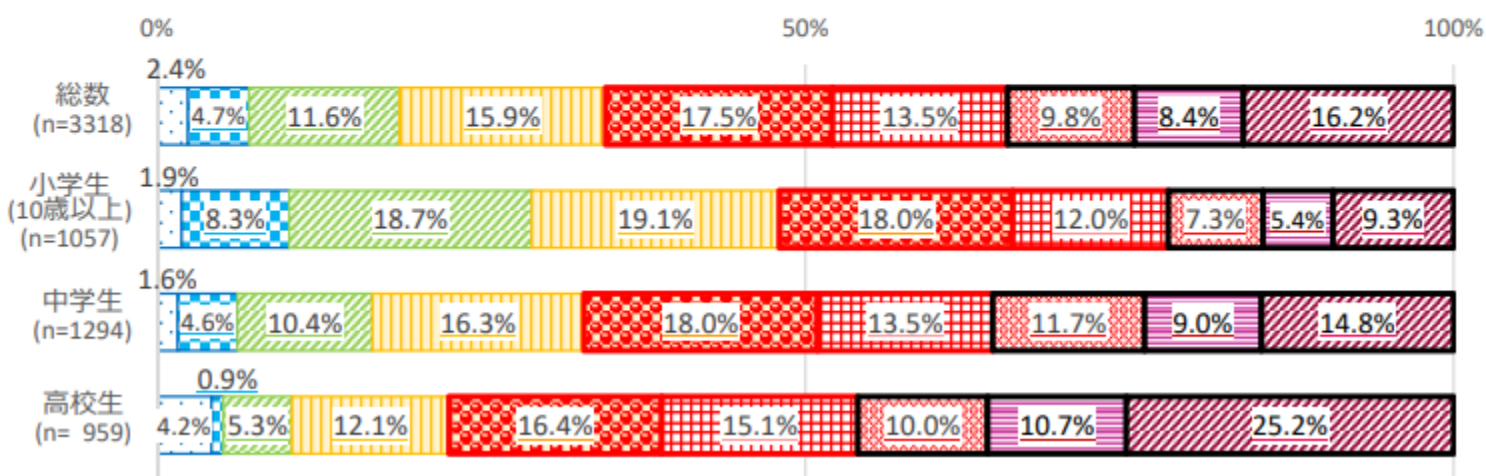
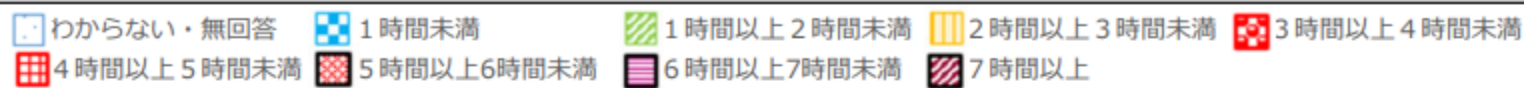
読み解き

理解した該当のテキストが
どのような立場から誰に向けて発信されているのかを判断するスキル

4. 情報社会の影を知る、伝える

子どもたちへの普及

青少年のインターネットの利用時間（利用機器の合計／平日1日あたり）



	令和3年度			令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	平均 利用 時間	3時間 以上の 割合	5時間 以上の 割合	平均 利用 時間	3時間 以上の 割合	平均 利用 時間	3時間 以上の 割合	平均 利用 時間	3時間 以上の 割合
総数	263.5 分	65.3 %	34.3 %	205.4 分	52.1 %	182.3 分	46.6 %	168.5 分	40.2 %
小学生 (10歳以上)	207.0 分	51.9 %	21.9 %	146.4 分	33.6 %	129.1 分	29.3 %	118.2 分	21.0 %
中学生	259.4 分	67.1 %	35.5 %	199.7 分	52.0 %	176.1 分	45.8 %	163.9 分	37.1 %
高校生	330.7 分	77.5 %	46.0 %	267.4 分	69.5 %	247.8 分	66.3 %	217.2 分	61.7 %

出典：内閣府 Webサイトより

ネットの社会問題

ICTとの付き合い方

実習4

スマートフォンという道具を持ったことで
多くの人々が失った能力とは何だと思いますか？
なぜ、そのように考えた理由も述べましょう。

まとめ

学校教育も昔のままというわけにいかない!
新たな教育内容と方法を検討しよう!!